



標注令義解按本

四



73
6244
4



73
6244
4



今者養老令所謂新令也。
更無改張の張字京本改作了。
今一本は徒上。

紬字和名抄に見えは字類抄ツ
ムーオホイトとあり太絲の
繒なり。

雜漆跡云隨用此司受糸雜漆耳。
内漆司為供御也然則此司有
漆戸廣絶布等漆耳。

挑文師跡云載官位令故得長上
考とあり官位令にて少初位
上階也挑とハ古記云儀禮注

鄭玄云結絲成文謂之挑也絲
閉。

挑文生釋云師說云挑文生自就
手挑織故得考亦課役俱免不
同有師生之例云云挑文生得

考也雖有師為非習學人故
漆戸の内織戸もこもふ也古
記別記云錦綾織百十戸吳服

大輔一人少輔一人

大丞一人少丞二人

大録一人少録二人

史生十人省掌二人使部六十人直

丁四人

大膳職

大夫一人掌諸國調雜物及造庶膳

羞醢菹
謂具食曰膳熟食曰羞
肉醬曰醢醢菜曰菹也醬豉

水五味均平蔵



源生入義解校本卷三

四十一

戸七戸川内廣絹織人三百五十戸緋漆七十戸藍漆卅三戸ふとありて織手等一二人在司上多在國織進耳。うれを赤戸の内織戸はるもなり也。はるもて多くハ國より織進る證主計式の諸國の調は綾羅を載るもて知べし。もより織部司もて織事織部式は織手を擧るもて明あれと。こはいと。まづ也。掌出納云云。跡云出納在此省并攝官等内雜物等此司副監物等行廻出納耳。たとへば諸國の調雜物の内にて食物ハ大膳職ハ藥種ハ典藥寮ハ銅鐵ハ銀治司ハ膏油ハ主油司ハ春米ハ大炊寮と。やうふ。ち。撤しを出納共は知る也。官田。四畝内は百町也。田令は有。

未嘗有菓雜餅食料率膳部以供具事

亮一人

大進一人少進一人

大屬一人少屬一人

主醬二人掌造雜醬段未醬等

主菓餅二人掌菓子造雜餅等

膳部一百六十人掌造底食

使部三十人直丁二人駈使丁八十

人雜供戸謂鶉飼江人網引等之類也

木工寮

頭一人掌營構木作及採材謂斬伐樹木可

以施於工匠事者為材也

助一人

大允一人少允二人

大屬一人少屬一人

御食產ハ濱島縣本はニケシナリと訓を共シ字不穩ニケナリと訓へき。穴は謂供御雜膳謂之食官田及國池所生謂之產と。何ぞ。食と產とをニ物と。はるも。何ぞ。む。ハ食產二字相須て官田國池及氷室等の事と。はるも。氷室氷之厚薄氷室の事ハ主水司条に見ゆ氷の厚薄を奏はるも氷樣奏と。ハ宮内式云凡藏氷之處収氷多少及氷厚薄每處具錄元日群臣未喚之前省輔以上將木司入奏并進氷樣其詞曰宮内省申主水司能今年収多留氷合若干處氷若干室厚若干寸已下若干寸已上益自去年若干室減自去年若干室供奉礼留事申給諸方口味米云諸方如言諸國也

置反安齋漫筆云今いゆる納豆也。

未醬和名抄云楊氏漢語抄云高麗醬美蘇今按并色立成說同但本義未詳俗用味醬二字とあり味醬の字三代實錄四十九見也新井氏云ミソハ韓地の方言也鷄林類事曰醬曰蜜祖これと和名抄云高麗醬美蘇といへるに符へり。

有菓和名抄云有野王按凡非穀而食謂之有和名佐加奈一云布久之毛乃も同抄云菓蘇說文木上曰果字或作菓日本紀私記云古乃美俗云久太毛乃漢書注張晏曰有核曰菓无核曰蘇應昭曰木實曰菓草實曰蘇云ハ菓字は蘇をハこめて有菓とかけり也。

食料朱云謂菜也跡云諸司菜料。

笠・織・扇 謂織・織・蓋 帷帳・湯沐・洒掃・殿

庭・及・燈・燭 謂油・火・為・燈 蠟・火・為・燭・也 松・柴・炭・燎 謂

薪・柴・燎 等・事

助一人

允一人

大屬一人少屬一人

殿部四十人

使部二十人直丁二人駟使丁八十

此名食料然則以此食料作膳羞也。

人。

供具京東供其作今一本從。

鷄飼江人網引釋別記云鷄飼并七戸江人八十七戸網引百五十戸ハハ品部の別記といへり。營構ハ營繕令凡在京營造及貯備雜物申太政官付主計預定出所料備これ也本作ハ跡云凡以木作物皆此司造也。

採材穴云此司度申官今孫。

駟使丁古記云諸國仕丁是也與直丁同。

雜穀分給穴云分給謂每馬給豆二升之類朱云謂隨色分給司也。

粟充主水大豆充大膳ハ粟ハ漿饘粥大豆ハ醬豉未醬等の料あり。

諸司食料朱云諸司朝夕給常食并月一度給月料等皆是とあり大炊式云親王以下の月料の事見ゆ。

與ハ義解ニ依ハ腰輿也古記云腰輿多許之和名抄是と同一輦古記云輿无輪也輦有輪也跡云輦者已之久留万和名抄周禮注云后居官中縱容所乘謂之輦和名天久流萬為輕輪人挽所行也。

織織蓋ハ廣韻云織織絲綾為蓋又雨織晉王雅傳遇雨請以織入又金志國王織或黃或紅以金龍為頂蓋后用金鳳太子用龍妃紫織用孔雀一品銀浮圖注浮圖織頂也通作傘俗作織說文糸部織蓋也今俗作傘。

こりハ依て按ハ縮笠の事にて釋ハ野王按織即蓋也見唐衣服令云穴ハ織謂手織織蓋也跡ハ織者言手織之蓋耳ふとと味ふ手て指ハハ縮笠也六典禮部ハ織憶あり織ハ上ハ注さる如ハ憶ハ釋名ハ禦熱也とありて車上ハ張る帛ふハ織も是ハ准て車上ハ指ハハ縮笠あるを知へハそれと儀制令ハ皇太子以下の蓋即織蓋也織と蓋と名異ハハ物同一和名抄の屏織を以て説とふハ非也扇團扇也ハ和名抄團扇和名宇知波と古記ハ扇隱羽也これ儀式ハ執扇と見えて執て主

上の御體を覆ひ隠るもの也。惟帳和名抄に惟を加太比良と訓て帳和名を記し名義抄に惟帳カタビラトハリと訓りこれにて

二字同物ありを知へ。

殿部四十人の四集解三本作。謂依醫疾令云云此文の義解。

謂疾病之家申牒宮内省事少

即省直處分事重者申太政官

奏聞給とあり是は依は重病

ぢねハ五位以上といへ共

奏聞せざる也又同令ハ凡醫

針師典藥量其所能有病之處

遣為救療義解は謂此據五位

以上不及六位以下也と見ゆ

是を以て考ふる六位以下の

病家ハ療より醫を遣は事ハ

元ハそれと醫ハ仁術あれも

私ハ行て療は事ハ六位以

下庶人ハ至まで皆あなり

醫師十人古記云問如此之類司別數多未知等親相避以不答

典藥寮

頭一人掌諸藥物療疾病謂依醫疾令五位以

上疾患者並奏聞及藥園事遣醫師為療是也

助一人

允一人

大屬一人少屬一人

醫師十人掌療諸疾病及診候正イ

醫博士一人掌諸藥方脉經教授正イ

生等

醫生四十人掌學諸醫療

針師五人掌療諸疾病及補寫謂虛者補

之實者為之也

針博士一人掌教針生等

針生二十人掌學針

按摩師二人掌療諸傷折

未決定或說文稱主典以上者即除應連坐以外不可相避診候釋云同脉為診同色為候諸藥方の方字京本集解共ハ分ハ作一本及ハ作掌學諸醫療の五字京本无一本ハ從ハ壺井本掌學諸藥及脉經ハ作ハ諸疾病の疾字京本瘡ハ作ハ或云疾ハ作ハ瘡病ハ作ハ針師創腫を兼ハ似ハ集解ハ醫疾令を引て云醫生既讀諸經乃合業教習十二人學體療三人學創腫云云ハれハ創腫を學ハ醫生也針師ハ拘ハレハ補寫釋云針經曰針補寫所謂補者以大指引所謂寫者以大指推子午為限不得超過伴云古記云撫搏推也大拇指出外云

補大母指入内云馬朱云補馬所謂以大指引推也瀉身内惡氣補言氣也

咒禁ハ咒文を讀て惡氣を被ふ云醫疾令義解ハ為猛獸虎狼毒蟲精魅賊盜五兵不被侵害又不傷湯火刀刃も六典ハ以咒禁被除邪魔之為厲者ハ見ゆ按ハ信巫不信醫といハハ六不治の其一也れど聖字の巫ハ徒ハるを思ふハ鹽ハ巫ハ近き者也醫職方を考るハ千金方ハ依て咒文を載る多し

- 按摩博士一人掌教按摩生等
- 按摩生十人掌學按摩療傷折
- 咒禁師二人掌咒禁
- 咒禁博士一人掌教咒禁生等
- 咒禁生六人掌學咒禁
- 藥園師二人掌知藥性色目
謂寒温為性形
- 藥園生六人掌學識諸藥
- 使部二十人直丁二人藥戶乳戶
- 正親司
- 正一人掌皇親名籍
謂二世以下四世以上名籍按戶令皇親為不課故知於京職亦可有皇親戶籍也
- 佑一人
- 大令史一人少令史一人
- 使部十人直丁一人

藥草之題採握種之所須人功並役藥戶

藥性色目古記云性謂辛苦之狀也色謂白黑之別也目謂諸藥之名也如烏頭附子之類也藥戶乳戶釋別記藥戶七十五戸乳戶五十戸と有藥戶ハ藥を採種以て戸也乳戶ハ牛乳を取る戸也廐牧令其乳牛給豆三升稻二把取乳日給と見え民部式ハ諸國貢蘇各依番次當年十一月以前進了其取得乳者肥牛日大八合瘦牛減半作蘇之法乳大一斗煎得蘇大一升かく牛乳を煎て作れり云蘇といハ是を食物と和合て喰ふ也此乳戸の中より出て供御の牛乳を取る者を乳師といハ類史ハ天長二年四月改乳長上為乳師と

内膳司

是也西宮記云乳牛院典藥別所
所在左近馬場西有別當乳師
預等納山城丹後葛大炊雜穀
遞取立味原牛供御三宮乳と
あり但民部式云諸國貢雜の
番次を載これと乳牛院を置
けりハ令式の制壞と云
後の事あり

皇親名籍穴問親王何答是約皇
親也云云名籍ハ名帳戸籍也
義解ハ二世以下とあるハ皇
孫以下也一世皇子ハ天子の
御子にて天子御家内の事
ゆゑハ除て載る皇孫
至てハ既ハ皇別の一家あり
ハハ名籍有て此司ハ掌
但皇子ハ親王ハなくせ給へ
即家内ハゆゑハ當司ハ預
宮内式ハ凡親王諸王名籍
者皆於正親司案記とあり

奉膳二人掌惣_ト知_ル御膳進食先嘗_ニ謂_フ

御所而嘗之凡王食調食欲登_ル天供膳官營造清戒俱至然猶慮其誤犯故在照臨事而先嘗也

典膳六人掌造供御膳調和_ニ庶味寒

溫之節_ヲ謂寒甚者臆熱過者爛令其調適不失中和其依考課令

大膳職亦須知御膳也

令史一人

膳部四十人掌造御食

使部十人直丁一人駟使丁二十人

造酒司

正一人掌釀酒醴_{謂醴甜酒也}酢事

佑一人

令史一人

酒部六十人掌供行觴

使部十二人直丁一人酒戸

て知_ル然共二世以下を
旨とて掌司あり正親
の親字ハ皇子を入てハ看
ハハ穴の如く一世ハ皇親
の字ハ約と也それハ正親
の字の正面ハ諸王の也
奉膳二人類史神護二年二月敕
准令以高橋安曇二氏任内膳
司者為奉膳其以他氏任之者
宜名為正これより奉膳と正
とふハハ委職原抄標注
といへり
惣知御膳朱云謂典膳以下所造
監當耳
王食調食伴云尚書云惟辟王食
注惟君得專威福為美食調音
都堯反爾雅王謂之瑀郭璞曰
治王之名也
造供御膳ハ非自就手造也率
膳部令領造耳引大膳職職掌

鍛冶司

為證、といへど大膳大夫職掌
2. 造廢膳羞といふと、別
て、こゝへ親自造るあるべし。
跡云典膳自就手造膳部同耳。
膳字書に於計切音意瘦也貴嶺

問答ふハセと訓り。

執過の熟字恐くハ温の誤。

其依考課令云云とハ彼令に監

造御膳淨戒无誤為主膳之最

とありて、本注は亮及典膳以

上義解は謂亮以上及奉膳為

監典膳為造といふは依てい

へるものなり。されど大膳は

ハ御膳を知り事を掌れと

ハ御膳を造る事をハせし造

ハ皆當司の事也。大膳条に并

て知べし。

令史跡云大膳令史行主典職掌

耳。不預造食。

官奴司

四十人掌造作

正一人掌造作銅鐵雜器之屬及鍛

戸、戸口名籍事。

佑一人

大令史一人少令史一人

鍛部二十人

使部十六人直丁一人鍛戸

官奴司

正一人掌官戸奴婢名籍謂依此戸令

毎年本司色別各造籍二通是也及口分田事

造籍二通是也

佑一人

令史一人

使部十人直丁一人

園池司

正一人掌諸苑池謂凡苑池之所育

有可以供御者皆

司其地令

種植蔬菜樹菓謂草可食者皆為蔬

不浪侵也

者皆為蔬

甜酒古記云醴甘酒多麴少米作

一宿熟これ所謂一夜酒也甜

玉篇徒兼切甘美也穴女司

來此司俱造耳また伴跡は釀

酒謂女司共知耳といへるハ

後宮の酒司の事也。

行觴穴云廣色御所及諸司是也

朱云行觴謂節會之日等臨時

廣色耳古記云行觴給酒耳

鍛戸の事木工寮式に見ゆ

官戸奴婢とハ官戸と官奴婢と

二色也

毎年本司云云本司ハ官奴司也

籍ハ本文の名籍也てハ名帳

戸籍ハ非はた名籍也其

一通太政官に送て民部以下

以一通本司に留む戸令は有

口分田事穴云口分田之數檢知

耳但収授之法民部知耳田令

云官戸奴婢口分田與良人同

義解云此不稅田釋云死人等
分田者即申送太政官但生益
分田者待班年給耳

諸苑池古記云除灌田以外池等
一說物產所在之地皆掌此池
水處分

司其地之地字一本池は作る非
也苑池は地を云
猶菓子也の也字京本脱

土作穴云謂塗壁之類也

石灰穴云石灰焼而即収此司耳

菜樹菓猶菓子也其種植
二字兼屬蔬菜樹菓也等事

佑一人

令史一人

使部六人直丁一人園戸

土工司

正一人掌營土作瓦塗謂瓦塗猶瓦也

故連言也并燒石灰等事

佑一人

令史一人

泥部二十人

使部十人直丁一人泥戸

采女司

正一人掌檢採采女等事

佑一人

令史一人

采部六人

泥戸の瓦を作事木工寮式
見ゆ

采女をウ子メと訓むハ氏女と
凡諸氏氏別貢女といふ是
也其氏女の氏を采よりへ
るハ同令ニ形容端正とあり
采擇よりるは依り後
漢書鄧皇后紀入掖庭為采女
の注は采擇也以采擇因立名
とあり

檢採采女等穴云此司只有名帳
其身采女司耳問采女名帳亦
在縫殿寮哉答私案不含有也

使部十二人直丁一人

主水司

正一人掌漿水饘粥

謂稠糜曰饘
稀糜曰粥也及

水室事

佑一人

令史一人

水部四十人

使部十人直丁一人駟使丁二十人

後案配水司膳司所殘可上縫司故知名帳可有縫司但不可有寮朱云此司為本司可分配後宮十二司等也惣名帳可有此司者未知等字情何師云檢知其上日并所為之事等也かく上日と所為との事共を檢知して其考第を中務に送る也但命婦官人の考課ハ縫殿寮より中務に送る米女之事も縫殿ハ預らん米部ハウ子メベと訓む米女部の畧マて男官也漿水饘粥ハ四種の名也漿ハ和名抄ハ春宜食漿甘水和名豆久利美豆俗云逆於毛比と云り豆久利美豆ハ作水也逆於毛比ハ煮水也共今所謂飯湯也本草云炊粟酢其汁加食物養脾胃散食執貴人大人皆

水戸

主油司

正一人掌諸國調膏油

謂肉脂為膏
自餘為油也

事

佑一人

令史一人使部六人直丁一人

内掃部司

正一人掌供御牀狹疊

謂狹疊猶
云疊也

用之曰之漿也それと主水式は供御月料御粥漿料月米一斗と見え又供御年料は貫布篩三十二口磨御粥料とあり彼式あり粥漿の粥ハ此令なる粥ハハ何ハ粥漿とハ何ハ粥漿の事也米を粥としてを篩より磨る粉水となしゆぬ粥漿とも云也但和名抄を考ふる漿の次は白飲和名古美都今案濃漿之名也といふ條あり此白飲ハ粥漿なりむ飲ともぬゆ然ハハ漿の一字あり淡漿マて作水とも煮水とも云ベく粥漿の二字なり白飲マてこれ濃漿あれを給水ありベく漿と粥漿とハ聊其別あり如ふれ共名義抄ハ漿はコムツツクリニツニオモヒ

ユの三訓をつけとれと漿の
一字は白飲とも兼る也け
り水ハ元旦の御生氣水の類
也古記宮内禮佛時僧洗手
湯者當司設若有僧數多不堪
造湯者請主殿寮ふとも證
とひべし但又古記一説漿
水一訓とあり東宮主漿署
引て云へし饘ハ和名抄饘
和名賀太賀由とあり粥汁ハ
糜の稠くすなり名也粥と
同抄粥和名之留加由と見
えて糜の少なき粥汁也これ
を分ていへし饘と粥と別物
あれど共に粥なり事疑无
かくて饘も粥も等しく米
もて造る物ハ飯を煮て飯
ハ依りて汁を主とせるゆゑ
主水と掌る古記饘難粥
汁也即可云粉水俗誤以饘字

薦・簀・簾・苫・鋪・設・及・蒲・蘭・華等事

佑一人

令史一人

掃部三十人

使部十人直丁一人駈使丁四十人

菅陶司

正一人掌菅陶器皿

謂食器惣名爲
其木工器亦

皆掌事也

佑一人

令史一人

使部六人直丁一人管戸

内漆司

謂此司無駈使丁
者以官奴婢充也

正一人掌供御雜漆之事

佑一人

令史一人

漆師二人

名爲粉水也といふハ粥の
粉水と云べきが如くならん
饘も字彙は厚粥といひて粥
汁ある事論无れども共に主
水の掌るべき理也
氷室主水式は氷室廿一所氷池
五百四十所
氷戸の事品部の別記にいへり
調膏油釋云肉脂爲膏穀液爲油
朱云賦役令云調副物膏油此
則調膏油也
食器の食字京東二本共脱今
一本は徒云穴云器皿謂竈櫃
等之類也古今云竈竈是也古
記云檢校土師皿器
管戸の事別記にいへり
内漆司古記云此内字者織部司
職掌雜漆事故有内字耳

使部六人直丁一人

彈正臺

尹一人掌肅清風俗謂肅者敬也風者氣也俗者習也土地水泉氣有緩急聲有高下謂之風焉人居此地習以成性謂之俗焉假如信濃國俗夫死者即以婦為殉若有此類者正之以禮教是為肅清風俗

尹玉篇千準切治也風者下劉子風俗篇の文もて注す其文集解より信濃國俗云云古書に所見無し是為肅清風俗の為字京本以一作東本以為一作今一本及政事要畧を以て改む彈奏内外非違穴云内者京内迄御所也朱云非者非法也違者違法也彈與奏二事也按一彈と奏と二事なれ共二事一て見るべき所あり一事一て見るべき所あり假令ハ公式令奏彈式二事大者奏彈とありて義解謂解官以上也と見ゆ解官以上ハ事大あり

彈奏内外非違謂内者左右兩道也依公式令告言官人害政及有抑屈者彈正受推當理者奏聞不當理者彈之如此之事類是為彈奏也

弼一人

大忠一人掌巡察内外糾彈非違謂者宮城以内外者左右兩京即與尹職掌所謂内外者遠近既異其巡察彈正之巡察糾餘同神祇大祐少忠彈一亦同忠也

二人掌同大忠

大疏一人少疏一人

巡察彈正十人掌巡察内外糾彈非違

ゆゑ彈一なる状を即奏は是彈奏一事也又同條に非應奏及六位以下並糾移所司推判とありハ事大ありぬを奏べきことあり及六位以下の罪ハ彈ても奏せん所司は移は也是ハ彈のこゝて奏無しゆゑハ彈奏二事とせられと解を從ふ義解も當理の奏を奏と云不當理の彈を彈と云て二事に分てる意またゲへる事ハ無し當理者の者字集解に依る弼説文西古也舌柔而弓剛以柔從剛輔弼之意巡察内外穴云忠以下是自巡察人故内謂宮城門内官門外也於宮門内不令巡察故也外謂宮城以外京内是也宮門内聞有非違者忠等亦召彈无妨是

又依色ハ内とあり宮門内
及ハ内宮門内ハ内禮司掌
る故其職掌ハ宮内禮儀禁
察非違と見ゆ但尹と卿とハ
宮内までの非違を兼知る歟
大疏字彙云疏者記注也

諸門禁衛穴云諸門謂宮門宮城
門也問律云宮門以外若宮城
門主衛注云守衛謂衛士者未
知何司衛士乎答此司衛士是
也問京城門何司所掌答亦此
司合掌云云宮門とハ大内
外中内の三郭あり其中郭の
諸門也南一建禮春華脩明の
三門あり北一朔平式乾の二
門あり東一建春門あり西一
宜秋門あり又宮城門とハ外
郭の諸門也南一朱雀門福皇
嘉の三門北一偉監達智安嘉
の三門東一郁芳待賢陽明の

史生六人使部三十人直下二人

衛門府管司一

督一人掌諸門禁衛出入禮儀以時

巡檢謂以時猶有上考府官長皆以時按檢所部糾察

不如法及隼人門籍門榜謂載人名為籍載物

是也數為事

佐一人

大尉二人少尉二人

大志二人少志二人

醫師一人

門部二百人

物部三十人謂此名為内物部為決罪人持置此府當決罰

時皆帶刀劔也

使部三十人直丁四人衛士

隼人司

正一人掌檢校隼人謂隼人者分番上下一年為限

三門西一殷富藻壁談天の三
門別一東西一上東上西の二
門有衛門式一凡宮城門者並
令衛士衛之又宮門を守
事ハ宮衛令義解一衛門所守
謂之宮門とありて知へ
なほ彼令標注及別記に見ゆ
以時巡檢ハ長官次官の職掌也
宮衛令ハ五衛府官長皆以
時按檢所部義解ハ謂與職貢
令以時巡檢同其判官以下自
依上條毎日按檢この毎日の
字ハ依る官長の巡檢ハ日
日なれは折也故以時
時といへり
猶有時の有ハタモツと訓む巡
檢ハべき時を受持居て違へ
る事也さハ衛門府ハ
衛門府の受持する時ハ衛士
府ハ衛士府の受持する時ハ

を云釋は以時猶時といへるハ解盡る

門籍ハ官人の出入り宮門の
其のダ名籍を著る事也門勝
ハ禁中より物を外に出
勝也入ハ用度官衛令凡
應入宮閣門者具注官位姓名
送中務府衛府從便門著籍こ
レ門籍也又凡諸門出物无勝
不得出其勝中務府衛府門司
勘按レ門勝也

醫師一人官位令正八位下階条
二衛門醫師ハ續紀養老三

年九月始置衛門府醫師一人と見ゆ令の刊修ハ二年也此醫師刊修の後置りてハ載てハ有ま
き理されとハ二年三年の間あれを置りてハ二年刊修の時て實置りてハ三年や始
なりとハ故令ハ定りて一年を以て入れ紀ハ置りて一年依て記さるなり
門部衛門式云凡宮門者門部開閉と集解載る大同三年官奏門部率衛士守諸門とあり
車人司和名抄波夜比止乃豆如佐神代紀ハ火闌降命是車人等始祖也とありて彼書車人と云所縁
詳見ゆしと薩摩大隅の國人なり分番上下して京都に出仕は依てつひハ畿内近國は居住
の者も出来り車人式ハ凡車人計帳者五畿内并近江丹波紀伊等國毎年一通附大帳使連官官下省

其下番在家者差科課役
及簡點兵士一如凡人也
及名帳教
習歌儺造作竹笠事
佑一人
令史一人
使部十人直丁一人車人

其斑田年亦進田籍とあり其證也車の義ハ古事記傳ハ其國人の絶て敏捷ハ猛き事車人の如く故
ハ此名ハ也といへり古記ハ薩摩大隅等國人初擇後服也諸請云已為大奉仕人君者此則名車人耳
と見えし即神代紀ハ諸車人等至今不離天皇宮牆之旁代吠狗而奉事者也とありハ當りされと
大儀の時吠聲を發は是其職也然共未車人者良人也と見え賤民ハハハハ車人式ハ凡元日即
位及蕃客入朝等儀官人二人史生二人率大衣二人番上車人二十人今來車人二十人白丁車人一百卅
四人分陣應天門外之左右群官初入自胡床起今來車人發吠聲三節凡大衣者擇譜代内置左右各一人
教導車人催造雜物候時令吠く凡今來車人令大衣習吠左發本聲右發末聲惣大聲十遍小聲一遍訖
一人更發細聲二遍とあり此文ハ左とありハ大隅右とありハ阿多也これより其吠聲の事を知へ
しされハ令條の如く衛門を以て御門を守り司あり後紀大同三年八月其車人司依今年正月廿
日詔書既從廢省併衛門府而衛門府併左右衛士府仍更置此司隸兵部省これより兵部の被管とな
分番上下一年為限云云是むねと薩隅土著の者をさ其畿内近國あり又同一一年ハ在京一年ハ
在國也差科課役ハ調係を科する事也在國の如し調係を科せ在京の間ハ竹笠を造む簡點兵
士一如凡人とありハ在國の間兵士ハ簡點する事也兵士の事軍防令見ゆ同戸之内毎三丁取二丁
と云の法にて兵士ハ皆良人也故ハ朱車人者良人也といへり即一如凡人とあり凡人ハ良人也
教習歌舞とあり歌舞ハ車人式ハ凡踐祚大嘗日北向立奏風俗歌舞と見え尋常ハ无き事也ハ神代
紀一書ハ火闌降命告其弟曰吾汚身如此永為汝俳優者乃舉足蹈行學其困苦之狀自余及今曾无廢絶
この困苦の狀を儺は作て歸順の義を表ハ大嘗の日ハ行ふ其歌舞を教習ハ朱車人之中可有師也
其歌舞不在常人之歌舞可別也と見え歌舞の人數ハ車人式ハ彈琴二人吹笛二人擊百子四人拍子二
人歌二人儺二人とあり造作竹笠の四字京本无集解を以て補ハ朱云一端耳竹扇等亦可作これ依
きハ竹笠のみならず外の竹器も造る車人式ハ凡應供大嘗竹器とありて熬筍燂籠乾索餅筍籠等

見之、又年料竹器、薰籠、漉紙、簀、籠、及、竹、絞、刺、帙、と見え、竹、笠、の、事、ハ、无、延、喜、の、比、ハ、既、
竹、笠、を、造、る、事、ハ、絶、つ、と、云、何、の、故、ハ、集、解、ハ、問、竹、笠、を、何、用、答、不、見、と、い、へ、り、と、て、う、る、物、を、造、
る、ハ、皆、上、番、の、物、と、な、り、證、上、件、ハ、い、へ、り、如、く、差、科、課、役、如、凡、人、と、下、番、の、間、の、事、を、い、へ、り、と、て、知、へ、
但、準、人、式、ハ、凡、年、料、雜、籠、料、竹、四、百、八、十、株、用、同、國、園、竹、と、り、て、準、人、居、住、の、國、の、園、竹、を、用、り、と、い、ふ、れ、
と、下、番、の、年、ハ、國、に、て、造、る、と、い、ふ、思、は、れ、ど、こ、れ、ハ、や、後、の、制、に、て、令、條、ハ、合、ハ、ば、多、田、義、知、が、下、
番、在、家、者、差、科、課、役、と、ハ、竹、笠、を、造、り、む、る、事、也、と、い、へ、り、ハ、式、に、依、て、誤、り、也、と、い、ふ、簡、點、兵、士、を、職、官、志、
と、引、て、是、兵、部、之、職、也、故、於、罷、衛、門、府、更、隸、兵、部、と、い、へ、り、ハ、非、也、兵、士、ハ、點、り、ハ、準、人、ハ、限、り、ハ、庶、民、皆、
然、り、是、を、以、て、兵、部、ハ、隸、は、べ、
ハ、民、部、所、掌、の、民、悉、く、兵、部、
ハ、隸、と、ん、欺、甚、不、通、の、説、也、

左衛士府 右衛士府 准此

督一人 掌禁衛宮掖 謂掖者正門 傍之小門也 檢

校隊仗以時巡檢衛士名帳及差科

謂差配兵庫 大備陳設 謂大備禮儀 陳設兵仗也

大藏之類也 車駕出入前駟 謂導後殿 謂在後事

左衛士府云云衛門府ハ門を守
り衛士府ハ衛士を掌て其職
別ふる如くあれ共衛門府
ハ諸門禁衛と云衛士府ハ禁
衛宮掖といへる相似る事
なり大同三年七月官
奏ハ謹按令條禁衛宮掖以時
巡檢是衛士府之職也今衛門
所掌復不異於此徒設官負事
乖枉劇伏請一從廢省其諸門

佐一人

大尉二人少尉二人

大志二人少志二人

醫師二人

使部六十人直丁三人衛士

左兵衛府 右兵衛府 准此

督一人 掌檢校兵衛 謂每番檢校此 府不稱門傍者

是即略文更分配閤門以時巡檢車
無別例也

禁衛出入禮儀及門籍門勝等
事同令衛士府掌之然勅負為
名年紀積久今廢彼混此雖不
改文字號曰左右勅負府と集
解ハ見ゆ此時衛門府を廢せ
るれれ但此官奏ハ勅負為
名云云ハ始め衛門府を由介
比乃司といへり今其府を廢
せりとも勅負の名をさへ
共ハ廢せん古言を失ふふ
れを即衛士府の名とせば
然ハ何ぞと衛士の字を改め
るべからず衛士を其ま
由介比と訓へるの意也こ
の時四府なるが故ハ後紀
弘仁二年十月詔ハ衛士兵衛
四府者宮掖是守戒嚴非輕と
いへりかくて同年十一月の
官符ハ得散位從五位下大伴
宿禰真木麻呂右兵庫頭從五

人を下番といふ毎日さうり、右府も是より同一。
毎格檢校、近衛式は凡毎月一日十六日、具録當番近衛歷名、次官以上奏進、餘府准此、これ一月を二番と
あさる也。

此府不稱門傍者云云、朱は或云門傍不掌、何者關司職掌、官閣管鑑及出納事者然則出納關門之物、彼司可
掌、但或云關司只掌管鑑之出納也、故文稱出納不云出入といへ、不此或説さる有へ、さうりハ畧文とい
るは從へき歟と云む、猶然り、按、官衛令は凡諸門出物、无傍者不得出、其傍中務省付衛府、其同
令、凡儀仗軍器出入諸門、皆責勝とある、諸門も官門の事也、兵器を出入共、勝を責め、他物も其れを
出を責て入を勘を、其兵器も他物も尋常ハ關門内を出入はる物、其れを出入共、勝を責め、他物も其れを
金銀銅鐵布帛の類ハ、大藏ふとの預る所、是等の諸司、皆關門の外、官門の内は、其れを出入共、勝を責め、他物も其れを
府の預る所、主上の御物を出入はる事、關門は必、其れを出入共、勝を責め、他物も其れを
宿衛の人隨身の服用も、責勝及ハ、是等は依て按る、兵衛府ハ門傍あり、理也、其れを略文也
の義解るへきなり、猶考へ。

分配關門云云の關門の事、官衛令別記は、即彼令ハ兵衛所守謂之關門と見ゆ、ハ外中内三部の内
重の表明玄輝等門也、是御在所の門なり、ゆゑハ關といふ、兵士尋常是を守り、又儀式ハ就て大極豐樂
等の殿ハ御一給へと、或ハ會昌門應天門、或ハ豐樂儀鸞等の門を守り、是等は關門ハ、非
き共、殿門の禁衛ハ臨時なり、ゆゑ省て、主上の關門の事を舉げたる也、朱は分配關門者、殿門亦同とある
其證也、其外御在所并ハ大極殿東西の小門等も、兵衛を分け配りて守り、是を分配と云。
衛前後の前後ハ、衛士府の前、駈後殿ハ、異也、伴云古記云、遠行幸者必以左為前、以右為後也、近行幸者
隨便為前後、故曰前後也、分謂分左、右而為陣列也。
在兵衛四百人之外の在字、京本左は作る誤也、朱云番長四人者、兵衛四百之數内、但注兵衛之上者、選取兵

衛中長者、則宛番長也、故雖兵衛之負内、注置其上也、この説は從へ、釋古記も是より同一。
兵衛選叙令ハ、叙舍人史生兵衛、並以ハ考為限、軍防令ハ内六位以下八位以上の嫡子の中等を兵衛
と、郡司子弟の弓馬に便
る者も兵衛といふ制有て、
考選る預るハ、衛士ハ等
し、ゆゑ上品の者也。
關字、景戸間切馬關也、類聚名義
抄ハ、關關と有、左傳成十八年
注疏、每既為二關、關有二百一
十六匹、關既也、周禮技人
之職、天子十有二閑、鄭玄云每
廐為二閑也、説文閑、閑也、
供御乘具、釋云内藏寮縫作、儲備
此司、六云供御之外乘具亦合
有也。

配給穀草、朱云穀者從大炊寮可
給也、其職掌雜穀分給故也、草
謂廐牧令馬戸分番上下、其調
草云云、其穀草ハ粟稻豆塩草
葉木葉の類、細馬中馬驚馬ハ

左馬寮右馬寮准此

頭一人、掌左、閑馬、調習、養飼、供御、乘

具、謂是即自内藏寮所送者、其在配

給穀草及飼部、戸口名籍事、

助一人、

大允一人、少允一人、

大屬一人、少屬一人、

依て飼養の差あり。厩牧令に見ゆ古記に今行事馬一四日料乾草三圍宛雜穀之類不給養調草正輸官仰畿内交易宛也。

飼部戸口名籍伴云戸令戸籍六年一造条云其雜戸俊戸籍則更寫一通各送本司是。

馬醫の下一本師字有兵部式より師字无れを正し。

飼丁穴飼丁猶言飼戸とあり。

馬部飼戸の事馬寮式に見ゆ。

左兵庫寮の下は管司一の本注ありへり。或人いへり。こハ非也。兵庫の内兵庫ありハ大膳の内膳司に於る如し。

儀仗兵器の事兵部条に注し。

曝涼釋云曝涼之時申兵部兵部申官官奏請鑑曝涼。

覆奏朱云就兵器之事覆奏也何。

馬醫二人

馬部六十人

使部二十人直丁二人飼丁

左兵庫寮右兵庫准此

頭一人掌左兵庫儀仗兵器安置得

所謂依軍防令凡軍器在庫皆造棚閣安置色別異所是也出納

曝涼及受事覆奏事

助一人

大允一人少允一人

大屬一人少屬一人

使部二十人直丁二人

内兵庫司

正一人掌准兵庫頭

佑一人

令史一人

使部十人直丁一人

者公式令云其救處分五衛及兵庫吏者本司覆奏教也

内兵庫朱云為非常事内外二處設者或云此司為御料設者

左京とハ京師を左右に分て、朱雀大路より東を左京西を右京と云。名籍ハ朱云謂戸籍、但計帳亦可掌、何者戸令云凡造計帳、毎年六月卅日以前、京國官司責所部手實之故也。私正親司皇親名籍、按戸令皇親為不課、故知於京職亦可有皇親戸籍也。

糾察、穴云糾察猶檢校也、非巡察貢舉ハ貢と舉と二事也、攝津職条云一。

田宅集解云問田者戸口之分、欤答然也、問宅者依田令知賣買欤、答然也、師云京職不可勸課、有田之國可勸課、故此職不注勸課。

雜儒とハ賦役令ハ凡令條之外雜儒者、每人均使惣不得過六十日と見えて、京人ハ折一觸

左京職

右京職准此、管司一

大夫一人

掌左京戸口名籍、字養百

姓謂字亦

糾察所部貢舉孝義田宅

雜儒良賤訴訟

謂凡訴訟皆自下始故先由京國而後至

官省

市廛度量倉廩租調兵士器仗

謂按前令有兵士无器仗於此令兵士器仗並注即知非兵士之器仗別有官器仗與

道橋過所關遺雜物僧

尼名籍事

亮一人

大進一人少進二人

大屬一人少屬二人

坊令十二人

使部三十人直丁二人

東市司

西市司准此

正一人

掌財貨交易器物真偽度量

輕車賣買估價禁察非違事

た、雜儒を科らる、故歳役无、同令ハ京畿内不在、叔庸之例と云、是也。

市廛の廛ハ肆、同ハ關市令ハ市每肆と云、イチクラと訓む、即市式ハ羅塵絲塵と云、是也。

度量、朱云或云量收地租掌之、但度及權衡亦掌。

倉廩倉庫令ハ凡受地租皆令乾淨、以次收勝、同時者先遠、京國官司共輸入執籌對受と云、本注ハ在京倉共主稅按檢、ま

九集解云倉廩猶倉也。

租調賦役令云京及畿内皆正丁一人調布一丈三尺、次丁二人中男四人、各同一正丁。

兵士集解按軍防令兵士此軍團所領、不知京職兵士職家自可領哉、或云京職可有軍團者、何

答不可有軍團京職領兵士と
り大同四年官符に雇役兵
士の俸分錢五十文ありを
三十文加て一人八十文と定
むる事見ゆ

器仗釋云兵自隨身外更有官器
仗耳私案鼓吹亦有軍團置
鼓二面大角二口小角四口故
攝津職亦同かれば此職も
亦同じ集云此兵仗也非儀仗
與諸國同也穴は謂在軍團器仗
是也とありハ諸國器仗ハ軍團器仗也京職ハ軍團ハ无れどこの本文ハ器仗とありハ諸國軍團
の器仗と同じ官の器仗也

道橋營繕令云凡津橋道路每年起九月半當界修理凡京内大橋及官城門前橋者並木工修營自余役京内
人夫

過所關市令云凡行人欲向關國而請過所者本部具錄其事及人物名數二通申送所司所司勘問印署一通
留為案一通判給其過所官司檢勘聽過

關遺雜物廐收令義解關安也言无主繫養妄以放逸也とありて關馬牛の事也遺ハ同令義解稱關遺
之物廣擧畜產及財物等とあり雜物二字ハ遺字ハ條て看るハ關字ハ及以ハくべ
僧尼名籍雜令云凡僧尼京國官司每六年造籍三通一通留職國一通送中務一通送治部

佑一人

令史一人

價長五人

物部二十人使部十人直丁一人

坊令十二人拾芥抄は四坊為條とあり戸令は四坊は令一人と見ゆ京都はへ九條あれば坊令左右各
九人なるへを十二人ありハ一條より土御門に至て二坊は一人土御門より近衛に至て二坊は一
人近衛より中御門に至て二坊は一人中御門より大炊御門に至て二坊は一人大炊御門より二條に
至て二坊は一人合て一條より二條まで五人也三條より九條まで條毎一人を置て七人あれば以
上十二人也さうハ一條二條の間ハ四坊為條の制とハかゝりて十坊ありを御所は近衛處なり
其二坊とと令一人を置るを十坊は五人ありゆゑ十二人とハある也是山田氏の所考
也

交易朱云具按知市內賣物耳先云知直高下定估價也

器物真偽穴云財貨與器物一物名殊實同耳朱云廣言萬物皆器物也此則為禁行濫也關市令云凡出賣者
勿為行濫

度量輕重朱云度量者大尺斗升也輕重者權衡之輕重也此說是何者京職職掌尺稱度量不云輕重是以按
度量與輕重可為二事故也

估價ハ集解云關市令准貨物時價為三等これ物は上中下の三等あり譬ハ上物はても時依て其價
下等はおつるあり下物はても其價上等よりハ有一概云々

價長物部釋云並得考也

攝津職上古難波宮有て是を

掌官を職とあり此職即津

國を攝するゆゑ攝津職と

云攝ハ兼帶の義也名義抄は

攝をカヌと訓めり

攝津職帶津國

大夫一人掌祠社

謂祠者祭百神也
社者檢校諸社也

祠者云云釋云祠祭也周禮禘祀神祇是也古記云梅祭百神者祠諸社也これ諸社年中祭事と宮殿祠官等の事とてて祠社といへふ也
簿帳ハ戸籍の事也太宰条云勸課ハ考課令戸口増益条と田令課萊漆条とを見て知へし
貢舉朱云貢與舉二事也何者職制律疏云貢者依令諸國貢人舉者若別教令舉及大學送官者考課令云凡貢人皆本部長官貢送太政官其人隨朝集使赴集其大學舉人具狀申太政官與諸國貢人同試如此之類未知戸令國守余好學篤道之人舉而進者此亦為諸國貢人これにて貢舉の義明也諸國より舉送はる貢人大學に選舉はるハ舉人也

凡稱祠社者戸口簿帳字養百姓勸課農桑糾察所部貢舉孝義田宅良賤訴訟市廛度量輕重倉廩租調雜徭兵士器仗道橋津濟過所上下公使郵驛傳馬閑遺雜物檢校舟具及寺僧尼名籍事
亮一人
大進一人少進二人

道橋津濟營繕令云凡津橋道路每年起九月半當界修理十月使訖其要路陷壞停水及廢行旅者不拘時月
上下公使朱云他國公使經過也餘國職掌上下公使不云畧文郵驛傳馬ハ驛馬傳馬也檢校舟具跡云在津國公私舟具也穴云自外往來亦合勘私度越度之狀問主船司與此何別答主船司勘知天下公私船此司只的在津耳
掌諸祠事朱云謂包九國三島之内祭祀耳
祠社以下攝津職条と并せ知へし
戸口簿帳朱云問與京職所云名籍无別哉所以起疑戸婚律云國郡不覺脫漏增減郡内十口答卅卅口加一等國隨所管郡

大屬一人少屬二人
史生三人使部三十人直丁二人
太宰府帶筑前國
主神一人掌諸祭祀事
帥一人掌祠社戸口簿帳字養百姓勸課農桑糾察所部貢舉孝義田宅良賤訴訟租調倉廩徭役兵士器仗鼓吹郵驛傳馬烽候城牧過所公私

多少通計為罪各罪止徒三年
跡云不覺脫漏增減无簿帳及
不附籍書宣導既是長官事以
之按之簿帳與籍書不同之故
答律意計帳為簿帳戶籍為籍
書此令簿帳是戶籍與律不同
鼓吹集解問軍防令軍團各置鼓
二面大角二口少角四口又云
三開設鼓吹軍器未知此府既
不領三關何有鼓吹若依考課
令禮儀興行戎具宛備為太宰
之取者然則可在府庫哉
烽候軍防令云凡置烽皆相去四
十里此烽也同令云凡烽晝
夜分時候望云云此候也
城收軍防令城隍崩頽者役當處
居戶者緣東邊北邊西邊諸
郡人居皆於城堡內安置此
城也廐牧令凡每牧置長一人
帳一人此牧也

馬牛關遺雜物及寺僧尼名籍蕃客
歸化謂遠方之人
欽化內歸也饗讌事

大貳一人掌同帥少貳二人掌同大

貳

大監二人掌糾判府內審署文案勾

稽失察非違謂巡察所部非違其諸
國判官察非違亦同此

義少監二人掌同大監

大典二人掌受事上抄勘署文案檢

出誓失讀申公文少典二人掌同大

典

大判事一人掌按覆犯狀謂按覆管
國所申犯

狀斷定刑名判諸爭訟少判事一人

掌同大判事

大令史一人掌抄寫判文少令史一

人掌同大令史

大工一人掌城隍舟楫戎器諸營作

公私馬牛穴云先筑前國也其餘
之別立職掌者但具依帳押知
蕃客宋云蕃客使也
歸化戶令云化外人歸化者所在
國即給衣糧發飛驒申奏於管
國附貫安置
饗讌朱云則給蕃人也
穴云祠社以下饗讌以上皆筑
前國及府官行事不涉九國三
島也今この祠社以下の本注
を大國条の本注と比較し
る僧尼名籍の籍字以上は同
一文也かゝる籍字までハ
筑前を帯びる就ての職掌
也蕃客歸化饗讌の三字ハ府
國共知べしさて是くいへ
る太宰即九國三島の管領た
るを祠社以下其大旨をとも
へけむハたゞ筑前を帯びる
のこの職掌ハ非ず事い

むも更也

紀判府内、穴云筑前國惣為府内、
察非違、義解、依る、筑前一
國の非違を巡察する事也、さ
るハ所部と管内と、わのつり
り異ふれむ所部とハ筑
前の之也、但穴云察謂檢知也、
非巡行察といへるハ、察を巡
察といハ、管内を檢知は
る事といへる也、是れ一説
と備へる

按覆犯状、穴云唯鞠府内犯状是
有九國犯状者、亦案覆耳、其刑
部判事、按覆鞠状、謂按覆解部
所鞠也、今此云犯状者、自鞠是
按覆猶推鞠也、放刑部杖以下
當司決罰、徒以上送判事、令推
斷、但國郡死罪以下、合推斷、今
府不同國郡者、為別設判事故、
與刑部同也、連坐法亦如之、然

則或府或判事、防人所犯杖罪
者、當司決徒以上送判事耳、

判諸爭訟、穴云問糾判府内、與判
諸爭訟其別何、答按文、放刑部
諸爭訟皆判事判耳、問諸國疑
難何、答先判事決、若不決、獻刑
部、刑部尚疑申太政官、

戎器穴云戎器亦謂新造造訖、宛
防人料也、朱云稱兵器者、弓矢
太刀戈甲冑也、稱戎具者、若軍
防令云腰巾一具、鞋一兩者、以
上物欵何者、即其餘終云、行軍
之日、自盡將去、若上番年、唯將
人別戎具、自外不須故者、

不稱教授の授字、京東二本共、
脱、今一本、一從ふ、

課試學生、朱云問九國二島、每國
各博士醫師學生可有、答、今行
事、遠國者遣博士醫師、近國者
學生等來太宰府習耳、故博士

少工二人、掌同大工

博士一人、掌教授經業、
謂教授管國
學生、其醫師

不稱教授
者、文略也、課試學生

陰陽師一人、掌占筮相地

醫師二人、掌診候療病

算師一人、掌勘計物數

防人正一人、掌防人、名帳、戎具、教閱

及食料田事、佑一人、掌同正、令史一

人

主船一人、掌修理舟楫、
謂大工職掌、
云舟楫、此即

所、新造者、故、此
司、唯掌修理也、

主厨一人、掌醢醢齋、
謂醢者、醋也、齋
者、凡醬、所和切

也、即令調和醬醋
蒜薑之類是也、菹醬豉鮓、
謂雜乾
魚也、

等事

史生二十人

大國

醫師注不記生數者依下條隨國大小可有者跡云學生謂諸國學生也

防人正或本防人の下司字を加て防人司と題し正一人佑一人とやうに諸司の例は倣て府は管領一司ときり故は上の太宰府の題下にも管司一の三字を補へり續紀天平寶字元年閏八月敕は兵士一千人充防人司ふとの文は依きむ司字ありへともあるれど後は主船主厨史生等を載たりをわへも太政官の少納言外記中務省の内記の官省の被接あるが如く防人正も即府の被接はて別よりふ時ハ外記局内記局なると同く防人司とりふべきを府内は接て云時ハ司字除べし

守一人掌祠社戸口簿帳字養百姓

勸課農桑糾察所部貢舉孝義田宅

良賤訴訟租調食廩徭役兵士器仗

鼓吹郵驛傳馬烽候城牧過所公私

馬牛關遺雜物及寺僧尼名籍事餘

守准此其陸奥出羽越後等國兼知

饗給謂饗食并征討斥候謂斥逐也言候逐於

非常壹岐對馬日向薩摩大隅等國也

惣知鎮捍

謂捍衛也言鎮衛寇賊也

防守及蕃客

歸化三關國又掌關刻

謂依律關者檢判之處刻

者塹柵之及關契事

介一人掌同守餘介准此

大掾一人掌糾判國內審署文案勾

替失察非違餘掾准此少掾一人掌

同大掾

大目一人掌受事上抄勘署文案檢

古本及集解共司字无

防人名帳防人の良民より取

即兵士也軍防令は向京者名

衛士守邊者名防人

戎具伴云軍防令凡兵士每人弓

一張弓弦袋一口副弦二糸征

箭五十隻胡篠二具太刀一口

刀子一枚礮石一枚蘭帽一枚

飯袋一口水角一口腰巾一具

鞋一兩皆令自備云云

食料田米云軍防令云凡防人在

防守固之外各量防人多少於

當所側近給空閑地營種并雜

菜以供防人食

唯掌修理釋云修理舊舟楫也

醢醢ハ二物同訓也醢字鏡は酢

也酸也肉比志保又太比志保

とあり義解は醢者酢也と何

る醋を字鏡は酢也酸也加

良之又須志といへるを以て

思ふ酒及酢等漬る肉
を醃と云釋云作醃者以醬酒
也醃ハ大膳条云云如肉
醬の事同肉比志保
が聊異なり齋ハ和名抄
訓安布一云阿倍毛乃乃擣薑
蒜以醋和之なり道曾致共
一大膳条云一ハ鮭ハ釋云
説文脯也廣雅乾魚と字類
抄ハホレイヲとあり鮭下一
本菜なり

史生二十人穴云問刑部史生有
判事上此司史生在条終如何
答文異理同尚取典以上署
饗給朱云未知何人饗給若外賊
饗給穴云謂招慰不從戸貫
之輩意耳按ふハ蝦夷を饗給
ハ事歟
征討伴云孔安國曰奉辭伐罪曰
征鄭玄曰討誅也

出替失讀申公文餘目准此少目一
人掌同大目

史生三人

上國

守一人

介一人

掾一人

目一人

史生三人

中國

守一人

掾一人

目一人

史生三人

下國

守一人

斥候義解斥逐也といへハ
釋左傳斥山澤之險杜預曰
斥候也逐也これ據あり字彙
2前漢李廣傳注斥度也候視
望也といふより當なり伴云
檀輿律守城条云若連接寇賊
被遣斥候不覺賊來者徒二年
鎮捍穴云檀輿律防鎮捍賊之處
然則我捍賊耳まゝ防守ハ穴
云鎮捍防守一也朱云鎮捍防
守者部内之人凡此國邊遠人
心殊於餘人故云尔耳未明
三關國軍防令義解云伊勢鈴鹿
美濃不破越前愛發
關割釋云割柵也關也名例律云
割謂墾柵之所開左右小關亦
可云割也跡云割者開邊垣也
伴云諸人往來可障皆謂割也
朱云開割二也又得軍防令
ハ

關契の關一本木と作る山田氏云後宮職貢令尚藏条關契の古記に關契官貢令大國注云三關國又掌關刻木契是に依るを木契と作る是に似たりと云れ共古記に古令に據て書れハ新令に關契と改めり

大郡云云郡は上中下小の五等ありこと戸令に見ゆ大領云云選叙令云凡郡司取性識清廉堪時務者為大領少領強幹聰敏工書計者為主政主帳其大領外從八位上少領外從八位下これ郡領相當の官位にて官位令に載るゆゑ

目一人

史生三人

大郡

大領一人掌撫養所部_中掄察郡事餘

領_准此少領一人掌同大領

主政三人掌_下糾判郡内審署文案_勾

稽失_中察_非違餘主政_准此

主帳三人掌受事_上抄勘_署文案_檢

出稽失_中讀_申公文_餘主帳_准此

上郡

大領一人少領一人

主政二人

主帳二人

中郡

大領一人少領一人

主政一人

かく選叙令に載たる也主政主帳は位階無しとて大寶の始制に郡司の内大少領ハ式部の選任され共主政主帳ハ國司の自由なり紀和銅五年四月詔先是郡司主政主帳者國司便任申送名帳隨而處分事有率法自今以後宜見其正身准式試練然後補任と見ゆ此後ハ主政主帳ハ式部の補任に預るを養老の刊修よりハいよく然ふり也式部式に凡郡司有關國司銓擬歷名附朝集使申上其身正月内集省殿後撰文者四月廿日以前奏聞す凡諸國郡司補任之後皆移民部これより式部より補はる證あり

掄察郡事の郡下領字あり集

解也然ふれと行ある事疑ふ
一本内字あり

大領少領主政主帳注なり長
官次官判官主典也和名抄見ゆ然共其訓彼抄所見无
一穴は主帳无訓とあるは依
を大少領主政ハ訓あり
欽今諸書を通考する大領
を孝徳紀はコマリノミヤツ
コ或ハオケミヤツコと訓ミ
西宮記は古保乃見ヤツコと
訓ミ少領を孝徳紀西宮記共
瓜ナヒミヤツコ西宮記瓜ナ
イノミヤツコとリ訓あり
主政を孝徳紀はマツリコ
トヒト主帳を同紀はフアヒ
トと訓りさてかく大領ハ長
官少領ハ次官ふれ別行ハ
書へる理ふれ大少と并へ

主帳一人

下郡

大領一人少領一人

主帳一人

小郡

領一人主帳一人

軍團

大毅一人掌檢校兵士充備戎具
謂充

このものをハ一行はかけるが
上文の例ありゆゑ此も彼
に倣へる也

軍團伴云周禮鄭玄曰軍者衆之
名也軍防令義解云團者聚也
この軍團は千人以上と六百
人以上と五百人以下と大中
下の別有兵部式其主帳者
大團二人以下一人これ其證
也但ハ軍防令は依るは
大團の制也

大毅の字義軍防令いへり
檢校兵士穴云依軍防令統領檢
尉以下耳跡云行決罰者令習
郡司也獄令云犯罪答罪郡決
義云答罪朱云未知行決罰兩
毅決之若杖罪送所在郡也答
行者未明而可行者少毅以上
得行之

調習弓馬古記云軍防令凡兵士

備兵士之
戎具也
調習弓馬簡閱陳列
謂檢閱軍

行之陣
事少毅二人掌同大毅

主帳二人

校尉五人旅師十人隊正二十人

凡國博士醫師國別各一人其學生大

國五十人上國四十人中國三十人

下國二十人醫生各減五分之四

各為隊伍、便弓馬者為騎兵隊云云者、即此人等各備騎馬也。廐牧令、凡牧馬應堪乘用者、皆付軍團、於當團兵士内、簡家富堪養者、宛。

軍行之陣列とハ、軍防令あり騎兵隊步兵隊也。穴云陣法共知耳。

主帳二人の二集解一は作る、東本是は従ふ、然共此は載るゝ、大團の制にて、軍防令義解、兵滿一千人者、主帳二人、以外者一人是は依るゝ二は作るべし。朱云主帳掌造文書也、主帳以下並不得考者、跡云主帳亦合習郎主帳也。

凡國博士醫師朱云問不云職掌、答雖不云、置學生則明知教授學生云云、考課令を考るゝ、國博士醫師共二上中下三等の考第を立て課試せしむ、又朱云醫疾令云、凡國醫師教授醫方及生徒、課業年限並准典藥寮教習法、其餘雜治行用有效者、亦兼習、又条云、凡國醫生毎月醫師試、年終國司對試、並明定優劣、試有不通者、隨狀糾罪、若不率師教、數有僇犯、及課業不充、終无長進者、隨事解黜、即立替人云云、こゝよりて國の博士醫師の職掌を知へし。

其學生、釋云學令云、國學生取郡司子弟為之云云、
醫生、釋云醫疾令云、凡醫生先取藥部及世習、次取庶人年十三以上十六以下、聰令者為之者、然則國醫生取庶人耳。

各減五分之四の下、一本謂其學生、大國五十人以下、各減五分之四、とりハ義解あり、旁注の挽入あり、故に今是を取らば、各減五分之四と、大國ハ學生五十人、醫生十人、上國ハ學生四十人、醫生八人、中國ハ學生三十人、醫生六人、下國ハ學生二十人、醫生四人也、大上中下、共ハ各學生の五分の一あり也。

後宮云云、穴ハ在御所後故號後宮、其皇后亦可有後宮、而號中宮者、與後宮別名耳、と見ゆ、中宮の事委く職原別記にいへり、按ハ養老以前の禁中のこと、今詳あり、此といへ共、遷都以後より、こゝハ違はるゝべし、拾芥抄所載の圖、其外古圖共を閱らば、紫宸殿を前殿と、仁壽殿を常の御殿と、此より以北、常寧殿貞觀殿等の東西の限の内を、後宮といふ、弘徽登花麗景宣耀の四殿、昭陽淑景飛香凝華襲芳の五舎も、皆此内あり、この後宮は在て、奉仕はるゝ女中の官職を載とるゆゑ、後宮職令と云也、但義解ハ、妃夫人嬪此无所掌といへるハ、跡云後宮職令謂

後宮職令第三

謂妃夫人嬪此無所掌、而處職負者

下有十二司、舉其

多者、言之職負

凡壹拾捌條

妃二負

右四品以上

夫人三負

右三位以上

嬪四負

右五位以上

嬪以上但是稱其負耳不見所掌又祿令依品位給號祿又云若帶官者累給即知非職掌也

穴云祿令稱嬪以上依品位給號祿言於官人設相當法但於嬪以上不相當故別稱號祿耳

此乃依之嬪以上之職事乃依之知一然則職負之中處之又多一從一也

妃古記云天子之妃曰后令法妃以下皆為妾朱云妃謂皇后之次妻也凡妃夫人嬪者並皆天子之婦也其高下者如文列也

穴云嬪以上考選女豎中有女史實錄上日行事送中務右四品以上穴云問嬪以上其位不相當者稱行守哉答不含有若以无位為妃夫人嬪者即授其位耳

夫人古記云漢書云天子妾稱夫人

嬪伴云禮記注妾妃曰嬪鄭玄曰嬪者婦人有法度者之稱也

宮人集解官人職負上有東本是依之然其一本の无之從穴云宮人等亦合有御所後供奉ハ後宮の事を供奉ハ意

一東本常侍以下の事を供奉ハ義ハ非也

常侍の常一本及東本ハ從穴云依敕旨式ハ女司より奏請ハ事の男官ハ涉ハハ中務ハ宣送ハて執行セハハ公

式令の敕旨式ハ受敕人宣送中務中務覆奏訖依式云云此受敕人を穴ハ不明其色侍從等耳ハ何事ハ尚侍典侍ハハ不受敕人也

西示注ハ儀禮集說卷之二十一

西示注ハ儀禮集說卷之二十一

西示注ハ儀禮集說卷之二十一

西示注ハ儀禮集說卷之二十一

西示注ハ儀禮集說卷之二十一

西示注ハ儀禮集說卷之二十一

西示注ハ儀禮集說卷之二十一

宮人

謂婦人仕官者之惣號也

内侍司

尚侍二人

掌供奉常侍奏請謂奏而請其報

凡此為女司不涉男官若須涉者自依敕旨式也宣傳檢校

女孺謂下條諸氏氏別貢女雖非兼氏名欲自進仕者聽是也

知内外命婦朝參及禁内禮式謂後宮禮

式也此司以下無女史者之事皆取女孺堪任者為之也

典侍四人掌同尚侍唯不得奏請宣

傳若無尚侍者得奏請宣傳

掌侍四人掌同典侍唯不得奏請宣

傳

女孺一百人

藏司

尚藏一人掌神璽關契供御衣服巾

櫛謂巾頭巾也

櫛梳櫛也

服翫及珍寶綵帛賞

賜之事

宣傳ハ上言を下ニ宣傳スル也

この奏請宣傳ハ大納言の敷

奏宣旨ニ似ル

檢校女孺云謂諸司皆推知耳

問入當司所殘女上何司哉答

縫司掌女功皆合在其司私案

采女等配水司膳司所餘之女

上縫司也言名帳皆在內侍司

疏云諸司女孺皆檢校也釋云

或說十二司注上日行事送內

侍司內侍搥取送縫殿寮按

此釋說ハ宮人の事アル

是より推は諸司の女孺を

凡皆檢校スルアル

内外命婦朝泰穴云朝泰縫司所

知內侍司亦押知朱云朝泰者

朔節日朝泰也

禁內禮式古記云尚侍兼知諸司

事并妃以下宮人禮式也

無女史者云云女史ハ男官の主

典藏二人 掌同尚藏

掌藏四人 掌出納・絲帛・賞賜之事

女孺十人

書司

尚書一人 掌供奉內典・經籍・及紙墨

筆・几案 謂案亦 几屬也 絲竹之事

典書二人 掌同尚書

女孺六人

典書當女司口て掌侍掌藏掌膳掌縫の類皆男官の判官也され十二司の内は男官にて主典は當
る所の女史といふ者ハ无一女史无きゆゑは執筆の事一至於ハ女孺の内にて任は堪た者簡ハ
用ると也

掌侍四人 朱云雖无尚侍典侍不得奏請宣傳也其義即見文也

女孺の孺字說文弱也といふ所謂メノワラハ也下文は皆限年卅以下十三以上と見ゆ卅ハ童稚といふ

といへ共十三の童稚をむねと稱也朱云其職掌不見掌供官內雜事耳

神璽とハ三種神寶の事也この神寶の事ハ神祇令公式令及職原抄標注の別記にいへり

開契古記云官負令大國注云三開國又掌開契木契事知以木作之江家次第固開条木契三枚長三

寸方一寸以上木工寮以檜木作進之内記次大臣執筆各書木契一面賜伊勢國賜近江國賜美濃國書畢

即給内記令割之内記各自字中央割之惣六片といひて一本旁注ハ各一片留御所右片也謂當筆右也

と見ゆ按ハ此御所は留る各一片の契を藏司に掌居て固開のより御用まで開を越へき事あり

時ハ留めより一片の契を賜ふ越は人携行て固開使所持の一片の契は合て證しはるあり

衣服穴は謂見合供服用者人賜料可在縫司自餘雜物或自內藏分収或臨時與男官相共供奉耳自余諸司

皆敬此耳といふ縫殿寮裁縫衣服の義解擬御服并為賞賜と見えよ内藏寮条ハ年料供進御服と

見えて裁縫ハ縫殿寮に掌り調進ハ內藏寮に掌る然るに穴は依て按ハ藏司の掌る所ハ其調進の品

を藏め居て時々是を供奉し又縫司の掌る所ハ式正なり御服及皇后着御の品女官賞賜の料の如

きは是を知るよやといふ

中櫛の中ハ伴云佩中也野王案本所以拭物後人稍著之於頭以當冠也これに依て考ふる衣服令朝服は

頭巾といふ即この中にある事義解ハ巾頭巾也と見えよよて知へりこれに衣服令標注にいへ

る如く冠ハ縫殿內藏の衣服御服といふ内よりとりて頭中ハもと内々の物なりゆゑハ女官の藏司

一掌は軟櫛ハ和名抄一梳枕惣名也といへる如し。

服翫古記玉等之類也といへる和名抄服翫具をいへる也知へし。

珍寶綵帛朱云珍寶猶言寶也綵帛古記云謂雜染綾絹絕等也穴云染謂之絲也白謂之帛也。

賞賜朱云別敕給人物此司収掌按内藏式あり男官の賞賜也此司あり女官の賞賜あり。

内典經籍朱云其實可有圖書察云云。

紙墨筆几案朱云自紙以下此女官常収置耳其所來隨物色從司司來古記一說案曰長机凡曰短机。

供奉醫藥跡云率醫師等而供奉

醫藥也朱云供奉醫藥謂内藥

司所作之御藥也作訖後其實

可収此司者未明後度云供奉

時預掌者何。

藥司

尚藥一人掌供奉醫藥之事。

典藥二人掌同尚藥。

女孺四人

兵司

供奉兵器といハ朱云謂臨時隨召
供耳。また翫兵器彈弓之類と
見ゆ。こて是等の兵器其實ハ
内兵庫ありと御用の時受
て供奉はる欵。

尚兵一人掌供奉兵器之事。

典兵二人掌同尚兵。

女孺六人

闌司

闌司釋云宮中門謂之闌。
宮閤といハ宮衛令あり宮門閤門

の事也義解は諸門管鑰とい

ハ監物条義解は管鑰猶鑰

といへる如くた鑰の事也

此諸門の鑰を闌司の掌る事

同条義解は其諸門管鑰者闌

司掌之と見え宮衛令衛禁律

等ハ所見の衛府の請進管鑰

といへる也即諸門の鑰を闌

尚闌一人掌宮閤管鑰。謂宮城以內、
諸門管鑰、即

京城門、鑰、及出納。謂出入諸門、管鑰、

亦同也。其從閤門出入、雜

物者、門司之事、

勘檢也。

司掌之。されハ門鑰ハ皆此司
の掌也。穴ハ官閤管鑰。謂宮
門及官城門閤門之鑰耳。其京
城門鑰亦在此司也。といへる。
證と云べし。又穴ハ倉庫及置
公文庫鑰可有御所男官女官
便近而共供奉といへる。男官ハ
中務の主鑰也。女官ハ此閤司
也。主鑰の掌ハ庫藏の鑰。閤
司の掌ハ諸門の鑰。て共
ニ其實ハ別ふれ共御所の内
にて便近あり所置て供奉
はる也。江家次第節會敷設ハ
兼明門東西内掖各置草墊。閤
司座移鑰鈴印御幸櫃置。且陽
殿西廂板敷。三代實錄貞
觀十年七月納印鑰櫃置。兼明
門内東掖无故自開と見え
る。依る庫鑰ハ門鑰ハ共
ニ此兼明門内東掖あり幸櫃

殿司

典閤四人 掌同尚閤
女孺十人

尚殿一人 掌供奉典織膏沐燈油火
燭薪炭之事

典殿二人 掌同尚殿

女孺六人

掃司

尚掃一人 掌供奉牀席灑掃鋪設之

事

典掃二人 掌同尚掃

女孺十人

水司

尚水一人 掌進漿水 謂針汁 雜粥之

事

典水二人 掌同尚水

ニ藏てある也。さてハ男官
ハ女官ハ便近也。

殿司朱云殿司與男官共預知耳。
以下諸司亦放此。此司亦可掌
物實也。以下諸司亦同者。穴云
輿織等實者不在此司。

輿織の事主殿条見ゆ。

膏沐ハ詩經注ハ膏所以澤髮者。

沐滌首去垢也といへる。或云膏

ハ湯の誤。主殿条ハ湯沐と

ありといへる。

牀席等の事掃部条にいへる。

針汁為漿釋云按莫飲曰漿古記

云漿水以粟米飯漬水汁名漿

也。針音辭吏反飯也。

采女六人

膳司

尚膳一人掌知御膳進食先嘗惣攝

膳羞酒醴諸餅蔬菓之事

典膳二人掌同尚膳

掌膳四人掌同典膳

采女六十人

酒司

采女も女孺も同じ、たゞ御膳に奉仕する者を殊に采女と云膳司采女凡此司者男官造了進時共預知許歟
進食先嘗の義ハ内膳司と意同集解ハ男女兩司何司先嘗の問答ハ是と穿鑿あり
膳羞の事大膳職といへり但膳羞ハ大膳条穴ハ皆言食と見えろの古記ハ膳羞一種无別とあるが如く膳と羞と字義こそ異ふれと物實に同一酒醴の事造酒司といへり但跡ハ酒司正造而已供御之時此司供奉とありて此司ハ酒醴を造ハ非は供御の時酒

司より受て奉る也又蔬菓の蔬ハ説文ハ凡草菜可食者通名為蔬と見え名義抄ハクサトウと訓より菓の事ハ大膳職に注せり

釀酒釋云釀酒事與男官共預知之伴云兼知釀醴酢也

或云此司ハ女孺采女の類无きハ膳司ハ酒醴の事を惣攝はるゆゑ六十人の内を借り用ふ故にこれ无き也

縫司集解云此司无女孺者氏女采女分配諸司之外皆在此司也

纂組縫殿寮に注せり京東二本組の下ハ之事の二字あり一本朝奉の下ハあり今一本は徒ハ

朝奉ハ朔節日の朝奉也内侍条にいへり此司即内侍司と共

縫司

尚酒一人掌釀酒之事

典酒二人掌同尚酒

尚縫一人掌裁縫衣服纂組兼知女

功及朝奉之事

典縫二人掌同尚縫

掌縫四人掌命婦采女見朝會引導

右諸司掌以上皆為職事自餘為

掌事。但男官一准ハ内侍司ハ中務此司ハ式兵の如命婦泰見朝會引導。朱云泰見謂別敕有召命婦等者。穴云泰見除朝會外是也。古記云朝會謂節日等也。引導の下京本之事の二字あり。自餘為散事。朱云謂米女女孀也。散事猶言散位也。休假京東二本沐假。一作集解同。今一本を以て改む。一准長上之例。古記云謂散事考選與長上同。釋云氏女米女限年十三以上貢之。但叙位者依選叙令限廿五年耳。選叙令云凡授位者皆限年廿一以上。跡云謂歌司歌女等亦習此女孀得長上考。又此司之米女等考者本司注上日功過送縫殿寮宛諸司所餘女孀皆在縫殿寮

散事各每半月給休假三日其考

叙法式一准長上之例謂考者考課之年限

叙者選叙之階級既稱謂下長上之例明可與公勤不急職事無關之

也東宮宮人及嬪以上女豎准此

謂宮人女豎不制負數者依式處分其宮人考課者春宮大夫掌之

女豎者宮内省掌之嬪以上家事隸宮内省故也

凡内親王女王及内命婦朝泰行立次

第者各從本位其外命婦謂其勲位妻者不預

考課之年限ハ六年を六考と

以此六考の年限也上中下九品の第を定て善最の者を考む昇と負殿の者を黜く

選叙令ハ委選叙之階級ハ善最の人を選て叙位とむ階級ハ正從上下也

東宮宮人古記云臨時定依別式耳但妃以下女豎准帳内資人之數耳孀與豎以所仕貴賤為之別名也穴云孀與豎文異實同

嬪以上家事云云これ考課令の文也宮内省条標注ハいへり

凡内親王女王云云女王二字一本及要畧を以て補ふ朱女王謂四世以上也といへり中務条義解其五世者自入命婦宮人例といふ證と云べし

此色凡令内稱五位

以上者勲位者非也准夫位次若諸

王以上娶臣家為妻者不在此例謂不

在於外命婦之例其内外命婦各須不雜而分別也

凡親王及子者皆給乳母謂若内親王嫁諸王所生子者不在

親王三人子二人所養子給限也

年十三以上雖乳母身死不得更立

替其考叙者並准宮人自外女豎不

在考叙之限

内命婦古記云謂五位以上夫人
行立穴云行猶列也

外命婦古記云謂五位以上妻

若諸王以上釋云按諸王以上不

在外命婦例朱云諸王以上娶

臣家為妻者不在此例者假准

夫位將列者則臣女可離列女

王也依此不令出外命婦也未

知若不依夫位自有位者何若

依自位立内命婦列何答然也

又臣娶五世女王為妻亦不令

出外命婦准夫位將列者則女

王可離列臣女中故然則貴王

情耳私按若有自位者立女王

列耳欤何疏云諸臣聽娶五世

王為妻但亦不在貢女婦例何

者皇親雖无位列泰給祿故私

五世不任女王然則可出外命

婦古記云女王有位无位並女

王處行立其夫雖有不預外命

凡諸氏氏別貢女皆限年三十以下十

三以上雖非氏名欲自進仕者聽謂

別貢一人之外其貢采女者郡少領

別欲進仕也

以上姊妹及女形容端正者皆申中

務省奏聞

婦之例但皇親之外女王者得預外命婦之例耳九諸王以上不在出外命婦之例若妻王者泰王列有妻臣者

不得朝泰也今この説もを取て云ひ釋は諸王以上不在外命婦之例といへる四世以上の女王臣家嫁しても

外命婦の例ありと也又朱説ハ四世王以上の臣女を娶はる夫位は准はる臣女も女王の列はたつ也故ハ外

命婦の列ハ立はる夫位は准はる事ありと也自ら位あり其位は依て内命婦の列は立つ位无朝泰を得る

朝泰を得ぬ事朱ハ云され共古記ハ妻臣者不得朝泰と見ゆ中務式ハ九諸王以上娶臣家女為

妻者不得准夫品位といへる臣女ハ女王の列は立事ハ決てある也又臣家ハ四世以上女王を娶て

妻はる事令條ハ无と制あり共中務式の上は引る文のつき其内親王及女王亦不得准夫品

位但五世王者得准夫位と見えて當時ハ内親王女王の大臣納言以下は嫁たきも稀ハある事あ

れ共四世までハ更ハ夫の品位は拘る假令ハ三世まで四位女王あるハ二位大臣は嫁たきも外命

婦の二位の列ハ立はる四位女王の列は立つ若内親王の大臣は降嫁し給ふ論をもは内親王の

列は立たき但文を按はる女王の親王の妻となり内親王の諸王の妻とあるハ夫の品位は從

ふあり唯五世女王の臣家嫁はるハ其身既ハ皇親の限ありきゆゑ式文及古記は依るハ

夫の位は准て外命婦なり也かくて此本文の若諸王以上の上字要畧下は作き下あるハ二世諸王

より四世諸王までの事にて親王ハ娶臣下の制无き立はるもの也然共さてハた諸王とのこ

云て以下の字を添ふと理あり下とあるハ誤あり

謂不在於外命婦之例の於字京本出は作要畧同今一本及東本は從ふ

各須不離而分別の義解を説ふハ外命婦も夫と同所ハたりて別は列立は本文准夫位次の下ある疏

ハ假五位妻立五位後といへるハ誤也

凡親王及子者の子ハ親王の子にて皇孫なり男も女も同義解は依るハ内親王の親王は嫁て生た

ふ所の子の事也

所養子の子字親王と親王子との二を承く子二人と何る子の親王子の二をいへるは混ぜり
乳母身死云云朱云若不死終身猶為乳母也但所養子身死者乳母之名止耳但未知而未成選所仕考何空
奔為雖止乳母名尚預宮人例可得位何貞大煩未決

自外女暨朱云親王家有女暨依此文知耳此猶私就仕女等者

凡諸氏別貢女朱云謂氏无貴賤也貢女中所部官司令貢耳或云此京畿内也不云外國者未決古記云其
氏女謂京畿内也自進支不限内外也穴云氏謂石川氏一人紀氏一人之類是也但擢取氏中耳不必宗者
女也問元一氏後別成三姓未知為一氏為三氏乎答不審宜依別式也疏云諸氏定有別式也

年三十以下云云疏云女孀等雖十三始官仕合叙位而待年廿五合授位私大同元年十月官符云應令貢氏
女事檢令各皆限年卅以下十三以上而中間停廢今被右大臣宣你奉教件氏女者氏之長者擇氏中端正
女貢之其十三以上之徒心神易遷進退未定宜採女年卅以上四十以下時无夫者或貢後適入必合立
替云云按類史云此大同元年の官符を載て教凡采女事明令條皆限年四十以下十三以上と見え
るに依るを古本ハ卅とありんを卅と誤たるをよとてハ令制ハ十三より卅まであるを大同の格
に卅より卅迄と改たる欽中務式亦同うきハ終年の卅ハ同くて始年の十三を心神易遷進退未定
といふを以て格よりけり也又類史云采女といふハウ子ノといふ名目ハ非ハ采女とい
ふ事にて即集解云令貢氏女といふも同く采擇して貢せしむる義あり其内にて諸氏の女ハ都
以て且貴きより多けきハ采擇ハ一よりでも大く形容端正あるゆゑ氏女といひて采字用は
郎領の女ハ都に住て身もや賤く采擇をよりせされど形容端正あるを得かき依て采女とい
ふ云て氏字を用ざるあり其ウ子ノのウハ氏のウ也子ハノは通メハ女はて氏女の義ふれハ
ウ子ノと云言采字ハ當らぬ共采女は郎領の諸氏より采るよりゆゑウ子メと訓ても甚た
へるハ非ハくきハ氏女采女字こそ異ふれど名ハ同一ウ子メふれハ通て氏女を采女とい

かくならへ上条水司膳司あり采女の如き御食物よりつひて御前近く侍るゆゑ他氏の女
孀も同じ者ありその内より端正あるを采擇する意にて采女といへるは同例あれど同一氏女
か郎領の女のよりハ采擇して擢用するゆゑ采女とかけりゆゑなり

雖非氏名上より引る穴石川氏一人紀氏一人之類これ古書石川郎女紀郎女ふどありて皆其氏を自
の字を用ふ若石川氏よりても紀氏よりても定はる貢女一人の外別進仕はる女のありも
氏名を稱はる事あり氏名を稱はるハ一氏一人の疏云每氏貢一人訖而猶又重貢者聽
姊妹及女朱云孫女等亦同也皆申中務奏聞者未知先申太政官何又氏女何處可貢進何答女並皆先可申
官也後至中務可奏聞耳釋云采女年限一准氏女耳
形容端正古記云端正俗語賀富好也正訓直正耳

東宮疏云謂太子宮云御子宮在御所東故為東宮伴云四時氣自東發即春准此故為東宮春官其義无別也

傳史記注應劭曰太傳古官傳者覆也讚曰太戴禮曰傳其德義道德古記云愍而官之一種為道言萬行皆是道也別而名之則謂之孝悌仁義禮智信出孝經述義也德者得也自得於心心動於內出則由道故道德之字文恒相待疏云德謂天性所得道謂所得五常之道也穴云道德者未知與師範儀刑何有優劣哉傳是以道德師範東宮也然則遂仕太政大臣无妨但上文云无其人則闕此文不立其事然知少有優劣无止任用耳朱云少殊於太政大臣何者无其人闕不云之故也但大旨象

東宮職令第四

謂東宮太子之所居也

凡壹拾條

傳一人掌

以道德輔導東宮

考者春宮大夫錄上

日行事送於式部式部按定學士亦准此

學士二人掌

執經奉說

春宮坊

管監三署六

大夫一人掌

吐納啓令宮人名帳考

叙謂坊內諸司及宮人考叙其宮人考叙者坊司按定更送中務省也

太政大臣置耳

考者以下廿四字京本无東本及集解を以て補ふ疏云傳學士考注上日功過送式部但上日坊官日々注置耳

春宮坊和名抄美古之美夜乃豆加佐朱云東宮之内政事所行也假令如太政官

吐納啓令古記云春坊之政中太子謂之啓也他人啓事兼為通傳耳令八字書告戒也見えて上意を下傳ふ事也公武令は啓令と令旨式とを載る啓を納る令を吐は

官人名帳疏云宮人謂女孺等穴云宮人名帳亦有中務省考叙穴云猶考也朱云考叙宿直謂宮人并管諸司之考叙宿直者未知叙之字意何答依勘定考第叙位故加叙字問太夫考

宿直事

亮一人

大進一人少進二人

大屬一人少屬二人

使部三十人直丁三人

舍人監

正一人掌舍人名帳禮儀分番事

佑一人

可誰定答注上日行事申送式部省

宿直疏云所管諸司宿直耳

掌舍人名帳云云穴云假使宿直等放上条云云

舍人六百人朱云不見入色人也

私按若軍防令云凡五位以上子孫見无役仕者宛内舍人三位以上子不在簡限以外式部

隨狀宛大会人及東宮舍人者此款うれと舍人の入色の人を用事并をまゝ以後紀

大同元年六月東宮舍人者依令取陰子孫及位子儀容端正工書美者補之而項年率爾無

取白丁宜改此例一依令余と見えて白丁を取る事の宜らぬよりてかく令制を再

興せしむる共ふ得此法の通し難きとや同紀同年七月

令史一人

舍人六百人使部十人直丁一人

主膳監

正一人掌進食先嘗及諸飲膳事

佑一人

令史一人

膳部六十人使部六人直丁一人駢

使丁二十人

聽以百丁百人補東宮舍人永以為例弘仁三年十二月春宮坊舍人六百人就中入色五百人自丁一百人也宜五百內取外位一百人隨闕補之

主藏監

正一人掌金玉寶器錦綾雜絲裁縫衣服翫好之物

佑一人

令史一人

藏部二十人使部六人直丁一人駢

使丁二人

主殿署

進食云云朱云進食先嘗及諸飲膳者未知件物從何處可來物又以下諸司之物又何處可出物何若東宮一年雜用料有給物然則此物究用諸雜用何答諸司物皆自太司司可分受但一年雜用料所給此外別所給者未知而有度一年用物一度可受乎為當月別一度可受哉何私必月別受歟未知而何との説に依きて主膳の用へき物ハ大膳より主藏の用へき

物ハ内藏より分つ大司ハ大膳内藏の類也祿令ハ東宮一年雜用料云云とあるハ儲君の臨時に用給ふ料にてたとへて賞賜ふもの如き皆これより出さるべし

主藏監多田義知云延喜式以後此任不見不知其停年翫好之物の物字古本屬主作主殿署古記云兼掃部

主書署

首一人掌湯沐燈燭洒掃鋪設事

令史一人

殿掃部二十人使部六人直丁一人

駢使丁十人

首一人掌供進書藥筆研之屬

令史一人

使部六人直丁一人

供進書藥穴云醫疾令合藥供御条云餌藥之日侍醫先嘗次内藥正嘗次中務卿嘗然後進御其中官及東宮准此未知主書署何時供進哉答同共進退也

饅粥の事主水条にいへり。

漿と水とハ別也然古記ハ水漿也直水也漿粟水也漿水者一訓也水漿者二訓也といへり古記の意ハ漿水といへり粉水一品あり是を一訓と云水漿といへり粉水と水と二品の事也是を二訓と云と也されど主水条は云る如く正月御生氣の水を始め主水の掌る處むねと水の事なれり水字除くへきハ非ハ漿水にてこれ二訓也

主工署古記云兼木工司土工司鍛冶司多田義知云主工署亦不見不知其停年
銅鐵雜作穴云謂器及兵器並約為古今代雜器之字為雜作故也但此司者不取材然則用木

主漿署

首一人掌饅粥漿水及菓子之屬

令史一人

水部十人使部六人直丁一人駟使

丁六人

主工署

首一人掌水土構作及銅鐵雜作ミヤモノ事

令史一人

工寮材木耳ミミ古記ハ一答

銅鐵雜器者既成器物也更不雜造也といへりハ當司にて銅鐵の器物を作るハ非ハ但穴ハ兵器並約といへりハ誤ありハ兵器は別ハ主兵司ありハ典鑄司鍛冶司もとて造る器物共を請て用る事也然ハ何ぞ新造の器物の自ら損るを繕修る事とハ何ぞハ故ハ雜作の作字ソクリモノと訓て器物の事とありへき也た木工の二事ハ當署にて執行ふされど材木を此司にて取る事をハ免されば木工寮より分與る也これ木工寮と異なる所の也

掌供進兵器の供進二字一本を以補ふ穴ハ兵器儀仗者主工

主兵署

工部六人使部六人直丁一人駟使

丁六十人

首一人掌供進兵器儀仗之屬ミヤモノ

令史一人

使部六人直丁一人

主馬署

首一人掌供進乘馬鞍馬之屬ミヤモノ

署所造耳。非兵庫之物。但其用
不見。然思量非常備耳。其皇太
子隨身威儀兵器儀仗等者。兵
庫并五衛府備耳。非署之兵器。
る主工署兵器を造る
といへるハ穴の訛也。上云
る如く雜器をたふ新造をむ
き。是よりて兵器ハ制らるる
のたれむ。儲貳の御身を以て。
いうでる事ありむ。こハ
皆兵庫より供進はる也。朱云
兵器儀仗者未知何時可用。答
用時不見。猶非常設耳。而儀仗
何用。此亦有用時耳。

乘馬。朱云謂猶文云也。更无別意。
乘馬此亦自馬寮分受常此司
飼養耳。穴云主馬署有飼丁飼
也。私按調習可放馬寮也。

令史一人

馬部十人使部十人直丁一人

凡捌條三字京本无。集解を以
補ふ。

親王二字集解を以て補ふ。
内親王以下の本法も同じ。
文學穴云文學之考何人定哉。答
令說本主考文學以下書吏以
上。但帳内資人有正文也。疏云
家令文學考者本主定。不同學
士者。皇太子令无考。帳内資人
之本主寄有考家令之故也。
家令集解云私考課令云。凡家令
毎年本主准諸司考法立考。注
云云。考訖申省案記。穴云家令
以下不同在京諸司之例者。不
約文官名帳之例。又不同外官
日出上午後下之例。故舉一例
也。疏云家令不得同諸司斷決。
朱云家令惣知家事。一事以上
也。但不得行決罰也。若有可決
人者。申本主者。未知而犯徒以

家令職負令第五

凡捌條

親王内親王准此。但文學不在此例。

一品

文學一人掌執經講授餘文學准此。

家令一人掌惣知家事餘家令准此。

扶一人掌同家令餘扶准此。

大從一人掌檢校家事餘從准此。少

上罪者不盡罪直送所司何
た云凡家令者唯得決答仕丁
不得決資人

檢校家事朱云謂具如神祇官祐
職掌者未知而此家司如諸司
可宿直何也穴云問勾稽失宿
直并主典讀申及檢出稽失等
事放上文哉以不答尚不同彼
例又於彼家今稱監臨主守於
例不當也為不同稱監臨內外
諸司主典以上為監臨之例故
也今說准放神祇之例亦准為
監臨主守之例

大書吏の吏字東涯本吏と作
非也職原抄亦誤て吏と作
少書吏の吏これと同一朱云
勤署文案者此一端云耳受事
上抄檢出稽失讀申公文具如
神祇官吏者
少書吏朱云行署文案事書吏為

從一人掌同大從

大書吏一人掌勤署文案餘書吏准

此少書吏一人掌同大書吏

二品

文學一人

家令一人

扶一人

從一人

大書吏一人

少書吏一人

三品四品

文學一人

家令一人

扶一人

從一人

書吏一人

耳欬无吏生故何又問家司无
直丁情何若取封戸人充用欬
何

三品四品一本連書吏と從
文學以下共と同一別と
〜〜

職事女亦准此

一位

家令一人掌知家事

扶一人

大從一人少從一人

大書吏一人少書吏一人

二位

家令一人

從一人

大書吏一人少書吏一人

正三位

家令一人

書吏二人

從三位

家令一人

書吏一人

標注今義解校本卷二

第十七

豐田實藏書

